

平面内の領域の面積

- 区間 $[a, b]$ で $f(x) \geq 0$ ならば、定積分

$$\int_a^b f(x) dx$$

は、 $y = f(x)$ のグラフ（曲線）と、3つの直線 $x = a$, $x = b$, x 軸で囲まれた図形の面積である。

- 2つの曲線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ と2つの直線 $x = a$, $x = b$ によって囲まれる図形の面積 S は

- 区間 $[a, b]$ において、 $f(x) \geq g(x)$ ならば、 $S = \int_a^b \{f(x) - g(x)\} dx$.

- 一般に、 $S = \int_a^b |f(x) - g(x)| dx$.

※定積分の性質（p.85 定理 2.）を参照。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 1/5

「微分積分学の基本定理」の証明

微分積分学の基本定理

$[a, b]$ で連続な関数 $f(x)$ に対し、 $S(x) = \int_a^x f(t) dt$ とおく。

このとき、 $S'(x) = f(x)$ が成り立つ。

- 仮定から、 $f(x)$ は最大値・最小値をもつ； $m \leq f(x) \leq M$.
- $m(b-a) = \int_a^b m dx \leq \int_a^b f(x) dx \leq \int_a^b M dx = M(b-a)$.

$$\therefore m \leq \frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx \leq M$$

- 中間値の定理より、 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx = f(c)$ を満たす、 $a \leq c \leq b$ が存在。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 2/5

「微分積分学の基本定理」の証明（続き）

- 中間値の定理より、 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx = f(c)$ を満たす、 $a \leq c \leq b$ が存在。
- $h > 0$ ならば、

$$\begin{aligned} \frac{S(x+h) - S(x)}{h} &= \frac{1}{h} \left(\int_a^{x+h} f(t) dt - \int_a^x f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \left(\int_x^{x+h} f(t) dt + \int_a^x f(t) dt - \int_a^x f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \left(\int_x^{x+h} f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \{(x+h) - x\} f(c_x) = f(c_x) \quad (x \leq c_x \leq x+h) \end{aligned}$$

$$\therefore S'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{S(x+h) - S(x)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} f(c_x) = f(x).$$

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 3/5

2重積分と累次積分

- 2重積分：平面内の領域 Ω と2変数関数 $f(x, y)$ から定まる量；
（リーマン和の極限）

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy$

- 累次積分：定積分の繰り返し（計算方法）

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy = \int_a^b \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy dx$

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy = \int_a^b \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} f(x, y) dx dy$

注意

- 2重積分の $dx dy$ と累次積分の $dx dy$ は意味が違う。
- 積分順序は、積分領域 Ω の表現方法に依存する（一意的ではない）。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 4/5

空間内の領域の体積

- Ω 上で $f(x, y) \geq 0$ ならば、2重積分

$$\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy$$

は、底面が Ω で、上面が曲面 $z = f(x, y)$ の柱体の体積である。

- この柱体は空間内の領域

$$V = \{(x, y, z) \mid (x, y) \in \Omega, 0 \leq z \leq f(x, y)\}$$

と表すことができる。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 5/5